買う前に、自宅で道具を試せる体験へ。

一言の気づきを起点に、案と試す条件を書き進めた架空の例です。

見聞きしたこと（架空）

「使う場面が想像できず、買うか迷う」

暮らしの道具を選ぶお客様との、
店頭での相談を扱います。

そこから考えた可能性

自宅で試す体験があれば、自分に合う使い道に気づくかもしれない。

最初に試すサービス

貸し出し

道具を借りる

自宅で使う道具を
短期間借りる。

→

体験

使い方を試す

二つの使い方カードを
手がかりに試す。

→

相談

使った後に話す

使った場面と感想を
売場担当者に伝える。

二つの案から、最初に試すものを選ぶ。

相手に起きる変化、提供するもの、未確認の条件を同じ軸で比べます。

	案A｜購入前 暮らしで試す体験	案B｜購入後 購入後の使い方相談
相手に起きる変化	暮らしの中で試し、自分に合う使い道を見つけられる。	持っている道具の、新しい使い方を試せる。
提供するもの	短期間の貸し出しと、二つの使い方を試せる体験セット。	購入後の相談と、使い方を見直す支援。
未確認の条件	試したい場面と、支払う価値。返却・整備の負担。	継続相談の必要、対応時間、費用に見合う価値。

最初は案Aを試す

購入前の体験に、役立つ場面と支払う価値があるかを確かめる。

体験を届ける役割と、続ける条件を決める。

サービスの案を、誰が支払い、誰が何を担うかまで具体化します。

提供の仕組み（案）



道具を使い、返却する。

説明・貸出・返却を担う。

商品の準備・整備を相談。

まだ決まっていない、三つの条件

費用

誰が、何に、いくら払うか。
試行時の条件を相談する。

負担

返却・整備の時間と手間。
担当者が続けられるか。

分担

売場とメーカーの役割。
どこまで引き受けるか。

次は、試す条件を相手と決める。

試行前の記録です。顧客の反応・購入・使用後の変化は、これから確かめます。

次の一歩（記入例）

来週までに、試す条件を一枚にする。

担当：売場担当者 相談先：お客様と店の責任者

記載するもの：試す道具 ／ 体験費用 ／ 返却方法

説明を聞いた時と使った後で、言葉・選択・使う場面を比べる。

先に決める、判断の目安

続ける	使い道が見つかり、提供の負担も受け入れられる。
変える	試しにくい、返却・整備に負担がある。
やめる	役立つ場面が見つからない。

これから記録すること

言葉・望みの変化：未確認

選択・購入：未確認

使われ方・継続：未確認